

「これからを考える」

古い家の建て替えを依頼され、事前に承諾が得られたときは、解体前の家に入らせてもらうようにしている。

二階以上からの眺望を体感できるよい機会だからだ。すると、高い確率で二階のかつての子供部屋が、子供が出た後も時が止まったように残されていたり、無造作に物が詰め込まれていたりする。

その姿を見るといつも少し寂しい気持ちになる。

住まいにおける人の営みは必ず変化するので、数年後、数十年後には、家族構成や家族の健康状態も変わっているはずだ。

だから、家を購入したり新築したりする場合には、「いずれこの家がどう使われるようになるか」という視点は欠かせない。

将来のことを重視しすぎて今の生活充実感が失われてしまうのは良くないが、建物は長くその場所に存在し続けるものなので、例えば子ども部屋ならば、いずれ書斎など籠もり部屋にしたり、ゲストルーム、セカンドリビングとして使うなど、将来的に手を加える可能性を少なからず考えておけると良い。

また、部屋だけでなく、設備機器の更新についても考えておきたい。マンションにしても戸建てにしても、建物のメンテナンスは必要になる。マンションであれば、修繕積立費というかたちで将来的な修繕費用を毎月支払い続けることになるが、戸建てだからといって積立が不要というわけではない。

例えば外壁の補修は足場台を含めて数十万円では足りない費用がかかるし、給湯器のような設備機器は、耐用年数の10〜15年も経てば交換する必要性が出てくる。できれば修繕積立費を自分なりのルールで作り、突然の費用負担に備えるのが良いだろう。

## 平屋という選択肢。

zuiun(便利) vol.60

構想段階も含めて家づくりに1〜3年の期間がかかり、その後に住まうのは30〜40年。家は、「建てたら終わり」ではなく、「できてからがはじまり」だ。これから長らくどう住まうのかも考えておきたい。

「足るを知る」

モノに溢れる暮らしに息苦しさを感じる今だからこそ、シンプルでベーシックな平屋が輝きを増して見えます。無駄がなく、すべてに目と手が行き届くことの気持ちよさ。余分なモノを持たず自分が本当に好きなもの、大切なものだけを選んで暮らすという、現代の価値観からでしょうか。

近年ではシニア世代だけでなく、若年層からも平屋の要望が増えている。将来のライフスタイルの変化への適応性をも想像しているのかもしれない。

慎ましく始末のいい暮らしに平屋はフィットします。

今回の内覧会は、まさにシンプルでコンパクトな平屋の家。生活動線がワンフロアで完結するだけでなく、家族のコミュニケーションが取りやすい。子供が自立した後も空いた部屋が1階にある分、2階建てよりも有効活用しやすい。外壁の木板張りのメンテナンスも平屋の分、脚立さえあれば自分で塗装可能。2階建てに比べると大きな土地が必要になる等、平屋のハードルは高いですが、一考してみてもいいかでしょうか。

【内覧会住宅の主な仕様】

# 長期優良住宅 # 省令準耐火構造 # 耐震等級3

# 断熱性能等級6(UA値0.34)

# トリプルガラス樹脂サッシAPW430

# 無垢フローリング # ポーターズペイント